



奥物部美術館

奥物部美術館では、香美市の有望な若手アーティストである、土方佐代香の油彩画展を開催します。

作家活動をスタートさせ、多くの個展を開催し、高知県立美術館主催の『NORBORDER 3』や、香美市立美術館主催の『香美アートアニュアル』に選出されています。

また、平成20年の『第1回いの美術展』において大賞を受賞、平成24年『第7回美術作品コンクール・CONCOURS des Tableaux』において最優秀賞を受賞するなど、大きく評価されています。

奥物部美術館

土方佐代香展

— Highlight —

2月10日(火)～3月22日(日)
※最終日午後3時まで

土方の作品は、他を圧倒するようなスケールの大きさと、筆力にあふれたエネルギーギッシュな表現で群を抜いて



▲ on the way (2014)

香美市立美術館

香美市立美術館では、日本画の楽しみとして、県内外8名の作家によるグループ展を開催します。

この展覧会は、主に高知県内で活躍する市川雅彦・越智篤史・越智明美・中村達志の4名の作家に、県外で活躍中の作家である楠本衣里佳・佐竹龍蔵・原田有希・藤野裕美子の4名を加えて構成しています。新しい日本画の世界を、大いに楽しんでいただきたいとの思いから企画したものです。

日本画の楽しみ

— 新しい表現への挑戦 —

2月14日(土)～3月15日(日)

オープニングセレモニー
2月14日(土) 14時～

出品作家によるシンポジウム ※要入場料
2月14日(土) 14時30分～16時30分
館長または学芸員による作品解説
会期中 毎週日曜日 14時～



▲神楽庭/中村達志

出品者は、経験豊富なベテランから、大学院を出て間もない若手作家まで、さまざまな年代や経歴の作家がそろっています。これから新しい日本画をつくりだそうと努力している作家や、すでに独自の表現世界を築き上げている作家など、いろいろな表現の作品が展示され、現代の日本画の多様性を見ることが出来ます。

日本画は従来、花鳥風月と言うように、美しい日本の自然が題材にされますが、激動する社会の中で作家が探り出した表現は、より自由で新鮮な輝きを放っています。油絵などと同じように、身の回りの人々や植物、動物、建物などをモチーフにしなが、作家が独自の視点でそれらをとらえ、自由に表現しています。

(館長・都築房子)

吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会 講演会

第12回吉井勇顕彰短歌大会表彰式の終了後に、講演会を開催します。

井勇記念館隣
【講師】玉井清弘さん(NHK学園短歌講座『友の会』選者・『音』選者)

講師は今大会選者の玉井清弘さんです。大会への作品投稿の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。

※入場無料
【日時】3月7日(土)
13時～ 表彰式
14時～ 講演会
【場所】猪野々集会所(吉井勇記念館隣)
井勇記念館隣
【講師】玉井清弘さん(NHK学園短歌講座『友の会』選者・『音』選者)
【送迎バス】※要予約
香美市役所本庁舎前より、JRバス美良布駅経由で、無料送迎バスを運行します。行き 12時発(JRバス美良布駅12時20分) 帰り 15時40分発(JRバス美良布駅経由本庁舎前)

吉井勇作品紹介 (冬)

雨降れば寂しきことを風吹けば

はかなきことを思ひぬし庵

幾年をひとり住みたるかの山の

庵とおもふ寒燈のもと

【解説】

昭和16年2月に詠まれた短歌。土佐での隠棲時に思いをはせ、隠棲の庵『溪鬼荘』を詠んでいる。
つ、遠く土佐の山峡にある溪鬼荘を思ふ、住み棄ててより幾年か経し」という文が添えられている。
瀟瀟：風雨の激しいさま
寒燈：寒そうな冬の灯火

問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

姉妹都市交流だより



あわら市と積丹町へ 香美市特産ゆずの贈り物

12月8日、香美市から、姉妹都市のあわら市と積丹町に、特産のゆず玉合計600個が贈られました。

これは、JAとさかみ(土佐香美農協柚子生産部会)の協力で、冬至の時期に合わせて贈られたものです。姉妹都市として親睦を深め、香美市物部町のゆずを広く知ってもらいたい機会になりました。

①あわら市では、市民や観光客に対して香美市のゆず玉が配られました。また、12月20日～23日の4日間、4月にオープンした足湯施設『芦湯』で、香美市のゆずを浮かべた足湯が用意され、大変喜ばれました。

②積丹町では、町内の保育園児や、小中学校の児童・生徒などへゆず玉が届けられました。子どもたちは普段見ることができない香り高いゆず玉に大喜びでした。また、12月23日には『岬の湯しゃこたん』でゆず風呂を楽しみました。

